

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成30年9月13日 (2018.9.13)

【公開番号】特開2017-111398(P2017-111398A)

【公開日】平成29年6月22日 (2017.6.22)

【年通号数】公開・登録公報2017-023

【出願番号】特願2015-247720(P2015-247720)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/20 (2006.01)

G 0 3 F 7/004 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

C 0 9 B 67/20 (2006.01)

C 0 9 B 47/08 (2006.01)

C 0 9 B 67/46 (2006.01)

【 F I 】

G 0 2 B 5/20 1 0 1

G 0 3 F 7/004 5 0 5

G 0 3 F 7/004 5 0 4

G 0 2 F 1/1335 5 0 5

C 0 9 B 67/20 G

C 0 9 B 47/08

C 0 9 B 67/20 L

C 0 9 B 67/46 A

【手続補正書】

【提出日】平成30年8月1日 (2018.8.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 1 4 3 】

( 微細化顔料 ( P B - 1 1 ) )

臭化アルミニウム 2 0 3 部、臭化ナトリウム 4 7 部および臭化第二鉄 5 部を加温して溶解し、1 4 0 で式 ( 5 8 ) で表されるフタロシアニン顔料 5 0 部を加えた。1 6 0 に昇温して臭素 2 1 5 . 4 部を吹き込みながら、1 6 0 にて 7 時間反応させた。3 の氷水 2 5 0 0 部に上記反応混合物を注入し、析出した固体をろ取し、水洗した。残渣を 1 % 塩酸水溶液、温水、1 % 水酸化ナトリウム水溶液洗、温水の順で洗浄し、その後、乾燥して臭素化アルミニウムフタロシアニン 9 8 部を得た。得られた粗製臭素化アルミニウムフタロシアニンを濃硫酸 9 8 0 部に溶解し、5 0 で 3 時間攪拌した。その後、3 の氷水 9 8 0 0 部に上記硫酸溶液を注入し、析出した固体をろ取、水洗し、乾燥させた。次いでビーカーに 2 . 5 % 水酸化ナトリウム水溶液 5 0 0 部、ろ取した残渣を加え、8 0 、1 時間攪拌した。その後、この混合物をろ取、水洗、乾燥して、フタロシアニン環に臭素原子が平均で 1 5 . 0 個置換された顔料を得た。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 4

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 1 4 4 】

次に、三口フラスコに、N - メチルピロリドンを 5 0 0 部、得られたフタロシアニン環に臭素原子が平均で 1 5 . 0 個置換された顔料を 5 0 部およびリン酸ジフェニル 1 0 . 8 部を加え、9 0 ℃ に加熱し、8 時間反応させた。これを室温まで冷却後、生成物をろ過し、メタノールで洗浄後、乾燥させて、下記式 ( 6 3 ) で表されるフタロシアニン顔料 ( P B - 1 1 ) を得た。得られた着色剤の体積平均一次粒子径は 3 1 n m であった。

式 ( 6 3 )

## 【化 3 1】

